コミュニティだより

徳島市
徳島市コミュニティ連絡協議会
〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

みんなでお花見

応神町コミュニティ協議会

応神地区は、吉野川や今切川に囲まれた場所にあり、吉野川橋、四国三郎橋などの橋で市内に繋がる農業を中心とする町でしたが、近年は住宅化が進んでいます。高齢化も進んでおり、七十歳以上の一人暮らしの方に食事サービスを実施していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、お年寄りの行事が中止され、交流の場が少なくなっていました。

今年は新型コロナウイルスも収まり始めたのを受け、小学校にお願いし、校庭の桜を見る会を再開しようと計画しましたところ、多くの方々が申し込み、参加をしてくださいました。

「一人暮らしをしていると、普段は食べられないけど、みんな食べられた」と話され、お弁当を完食されていました。

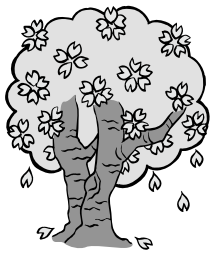
その後、中学校茶道同好会の野点（のだて）披露がありました。また、ボランティアの方との紙飛行機つくりや紙飛行機飛ばしも行い、童心に帰って楽しんでおられました。

中学校の子どもたち、先生方や民生委員、町内会連合会、婦人会などの各種団体のご協力に感謝いたします。

今後とも応神地区のみなさんと一緒に、よりよい福祉サービスができるよう努めてまいりたいと思っています。

会食を楽しむ様子

お点前の披露



花壇づくりとコミュニティ

丈六コミュニティ協議会

正門前の花壇

丈六コミュニティセンターの前には団地の人たちが利用している共同農園があり、朝晩、地域の人たちが農作業を楽しんでいます。また、センター前の道路は朝夕の散歩やジョギングを楽しむ地域の人たちが行き交う通りとなっています。

毎年一月には、丈六コミュニティセンターは勝占・多家良地区合同成人式の会場となり、たくさんの二十歳を迎える若者が集う場所となっています。

地域の人たちが行き交う通りに面して、センターの入口前には左右に花壇があり、以前は低木が植えられていました。地域の交流の場として、また訪れる人々を季節の花で迎えられるセンターにしたいと思い、正門前や敷地内の空きスペースに季節の花を植えることとしました。

令和三年より地域の老人会や更生保護施設女性会、地域のボランティアの方々のご協力を得て花壇づくり活動を行っています。

令和三年度の花壇づくりは講師の先生の指導のもと植木の除去と土作り・たい肥・地植えを行いました。

作業終了後、参加者はフラワーアレンジメントのテクニックについて講師の先生の話を聞き、花の寄せ植えの体験学習を受けました。参加者全員がそれぞれに鉢植えの実技を行いました。

令和四年度は、コロナの感染者数が増加傾向にあり、少人数での花壇づくりとなりましたが、参加者の皆さんはそれぞれに花壇づくりを楽しみました。

花壇づくり

佐古絆文化協会のこと

佐古絆文化協会

寄せ植え教室

●花苗
・パンジー
・ビオラ
・ガーデンシクラメン

佐古コミュニティセンターでは、令和五年三月十九日から三日間「佐古絆文化協会作品展」が開催されました。平成三十年の第一回作品展以降、コロナ禍の年の休止を除いて今年で五回目の作品展。今回は俳句・絵手紙・水墨画など十講座から力作が出揃いました。

「佐古文化財ボランティアガイド」の活動報告

そもそも佐古絆文化協会は、平成二十六年から三年の間「徳島市地域の絆づくり支援事業」として実施した「佐古絆づくり事業」を受け継ぎ、佐古地区独自で平成二十九年四月に発足させたものです。作品展は毎年の本協会

作品展を楽しまれている様子

の集大成の場としています。「文化」を通して地域住民の絆を深め再構築し、コミセンを賑やかな交流の場にしようと考えました。今や作品コンクール等での入賞者も出るなど、本格的に技術や技能を習得された方もいるほどです。

佐古は昔「問屋街」として栄え、銀行なども多い商業地でした。住み込みで働く人々も多く、活気ある経済の街でしたが、産業構造の変化や人口減少等で、地域環境も変化してきています。そのようななか、他の地域と同じように少子高齢化や防災など、住民が力を合わせて対応していかなければならない大事なシーンも増えてきました。そのいざという時の機動力発揮のためには、コミセンの敷居が低いこと、住民同士の絆が結ばれていることなどが大切なのです。

佐古絆文化協会は、佐古地区のいろいろな組織のなかでも、まだまだひよっこ団体で、歩みの歴史も小さなものです。しかし、目指すものは他の団体と同じように大きなものであり、共に佐古のまち、住む人の幸せのために貢献していきたいと考えています。

陶芸クラブと生花部の展示

災害に備えて

南井上地区自主防災連合会

コミュニティ協議会と自主防災連合会では発災に備えて「まずは命を守る」を念頭に置き、次のような活動を実施、または進行中です。

直近の活動では、大雨洪水時のハザードマップ作りが終盤を迎えました。昨年度は異常気象により他県では甚大な被害がありましたが、本県では幸い大きな被害はありませんでした。南井上地区は田園地帯で、避難所へ続く道に小学校への登下校路が通っております。大雨になると田畑が湧水地となり、道路との境界がわからなくなり危険を伴う事から、地域の特殊性を生かした通学路を表記しました。

次に防災意識の高揚を図るために、令和四年十一月三日に西消防署に依頼して、コミセン庁舎を四階建て共同住宅と仮定し、屋上に取り残された要救助者の救出訓練を見学させていただきました。命の大切さを使命とした隊員の節度ある機敏な行動に触れ、見学者の皆さまも災害の恐ろしさを感じ取ってくれたと思います。

また参加者の中から、親子で初期消火訓練の実施体験を行いました。親子で協力しながらの消火訓練も将来の防災リーダー育成の一環になったと思います。

その他、地域の高齢化も進んでおり、いつ何時、傷病者に遭遇するかもわかりません。バイスタンダーとして、救助隊に引き継ぐまでの適切な観察と処置のできる方々、五十人程度も養成済です。

避難所であるコミセン敷地内には、各団体からの協力も得て、飲料水の確保のため、手押しポンプ設備も完了しています。

初期消火訓練

地域内の各種団体は、今後も災害による生命の救出、減災のため、ハード・ソフト両面から試行錯誤しながら取り組みを進めています。

はしご車による救出訓練

心臓マッサージ

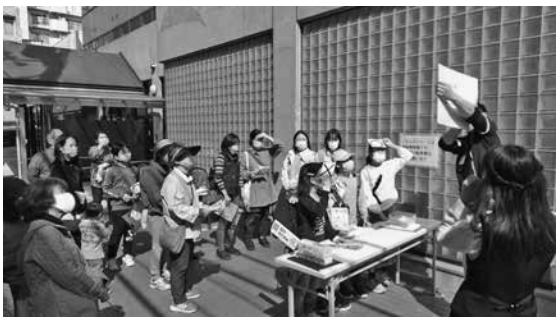
防災まちあるき・内町福祉まつり

内町まちづくり協議会　会長　宮澤　武志

春の陽気のもと令和五年三月十一日に「防災まちあるき・内町福祉まつり」が行われました。防災まちあるきは、両国本町商店街振興組合主催で内町まちづくり協議会が協力し実施されました。両国本町商店街の住民は防災訓練に力を入れており、大災害時に店や施設が、地域住民らに提供できる支援内容をまとめた「みんなの安心安全マップ」を作成しました。各店舗・施設が災害時に何ができるのかを記入し、住民がその店舗・施設に行くと支援する内容が記載されています（例　避難所として場所を開放・備蓄品がありますなど）。このような取り組みで、地区住民が安心して住めるまちづくりを目指しています。この日は町内外からも四十二名が参加し、旧内町幼稚園に集合し二班に分かれ、防災マップを手に持ち、両国商店街まで歩きました。到着後、ポイントとなる五店舗を回り、支援内容を確認し、商店主から出題された防災クイズを行いました。防災クイズを通して防災意識を高め、災害時の対応や行動や知識を学びました。今回の催しは、徳島市には過去に例のない新しい試みであり、地域住民の災害時に命を守る行動や普段からの防災意識の向上などを目的としています。このような試みは、他の商店街、町内会にも広がって欲しいと思います。防災時には、消防隊や警察官は、市民全体の救助の余裕がなく、共助がとても大切といわれています。近隣住民がお互い協力して助け合うことができます。最後にお買い物抽選があり、参加の皆さんは大変喜んでいました。

その後、園庭を利用して、内町地区社会福祉協議会主催の「内町福祉まつり」が開かれました。コロナ禍で実施出来なかったこともあり、この日を楽しみにしていた住民が予想以上に参加いただきました。内町住民の福祉と親睦を兼ねています。以前までは、餅つき、人気のバザーを実施していましたが、今回は中止しました。スタッフが、うどん・ぜんざい（無料）をふるまい、参加者の親睦を深めながら、美味しくいただきました。また、防災ゲームコーナー・防災ビンゴなども行い、楽しい時間を過ごしました。

ところで、内町幼稚園閉園後、園舎を利用した「ひょうたん島カフェ」ですが、建物の老朽化により、残念なことに令和五年三月末に終わりを迎えました。五年前に廃園校舎を利用し、住民の交流の場・居場所づくり・各種催しなどを目的に開設されたカフェは地域住民の交流に大きな貢献をしました。当初の予想を上回る五年間続けることができ、本当に長い間、地域の皆さんに支えられ、十分成果を上げることができました。今後もこのノウハウを生かし、引き続けられる事業は継続したいと考えています。



両国本町商店街の「安心安全マップ」を手に持ち、防災クイズに答える様子。

旧内町幼稚園園庭と校舎を利用し、防災ゲーム・防災ビンゴを楽しみました。

入田地区のコミュニティ活動

入田町まちづくり協議会

入田地区では、長期化する新型コロナウイルスの感染拡大の中で、これまで開催が見送られていた各種行事を、感染防止に留意しながら実施いたしました。

令和四年十月には、入田町コミセンまつりを文化展と併せて三年ぶりに開催しました。今回は、婦人会、入田市（いち）、地域の方の他に、入田中学生で構成したサポーターや入田幼小・中学校保護者有志の方にもご協力いただき、たこ焼きや綿菓子、ポテトなどの模擬店やキックターゲット、ヨーヨー釣りなどのゲームコーナー、バザーなどを実施しました。また、地域企業の協力によるショベルカー乗車体験もあり、どのコーナーも多くの人でにぎわいました。

文化展は、書道や写真、俳句、短歌、手芸、多肉植物の寄せ植えなど多くの展示があり、優れた技能を持つ住民がいかに多いことか、今更ながら驚かされました。

また十一月には町内健康ウォーキングを開催し、大人と子どもを合わせて三十九名の方が三キロ、五キロ、七キロの各コースを歩きました。コースの途中で講師にストレッチを教わり、景色や紅葉を見ながら、全員が楽しく秋晴れの中完歩することができました。

コミセンまつり　ゲームコーナー

コミセンまつり　模擬店

町民健康ウォーキング

最近は、地域の祭りなど皆で集まる機会が減り、町全体が元気をなくしているように感じておりました。そうした中、疲弊した町に少しでも元気を取り戻そうとの思いから、令和四年度は半ば強行的に行事を実施いたしましたが、多くの人でにぎわい、コミセンにも久しぶりに笑顔と活気が戻ってまいりました。

入田町も人口減少と高齢化、過疎化の進行に伴い、地域の繋がりが希薄化しつつある中で、「人と人との繋がり」を地域に見合った形で創出していくことが必要だと思っています。地域づくりの担い手不足の中、コミュニティの活性化が持続できるよう、協議会として努力してまいりたいと考えています。

コミュニティセンターと公民館の統合

市民協働課

徳島市における生涯学習推進拠点の改編方針に伴い、戦後から地域の社会教育・生涯学習事業を担ってきた公民館は、コミュニティセンターとの段階的な統合が進んでいます。

現在、市内に設置されている二十六のコミュニティセンター（分館を除く）のうち十七館で統合が進み、公民館の役割は、コミュニティセンターの指定管理者であるコミュニティ協議会に引き継がれました。これにより、同協議会は、コミュニティセンターを拠点に取り組んできた各地域の実情・課題に即した「人づくり」、「繋がりづくり」とともに、生涯学習推進事業を実施し、その地域の特色を生かした「地域づくり」という自治の実現を図っていきます。

今後も、順次、統合が進んでまいりますが、本市といたしましては、引き続き、地域自治の推進に向け、各コミュニティ協議会や地域の皆さまと連携しながら、時代や環境、地域の実情に合わせた取組を進めてまいりたいと考えております。

地域コミュニティの拠点として

渭東コミュニティ協議会

新型コロナウイルス感染症も、ようやく収まりを見せ、少しずつ落ち着きを取り戻し始めました。

令和四年度は、感染症の状況を把握し、検討を重ねながら事業再開に取り組みましたが、年度前半は、なかなか実施することができませんでした。

バルーンアート教室

特に残念だったのが、高齢者の方々を対象とした「敬老会」や「ふれあい会」、「体操教室」が中止となったことです。元気なお顔を拝見できなくなり、出かけるきっかけも少なくなってしまいフレイルとならないか心配しました。

また、当館は一階に保育所、三階に児童館と、子どもたちに囲まれたにぎやかな複合施設となっています。子どもたちを対象とした多くのイベントも開催していましたが、「福祉夏まつり」の中止、「工作教室」や「カローリング大会」の延期など、なかなか開催することができませんでした。

そんな中、八月に「木工教室」、十月には「人形劇と影絵」、「バルーンアート工作」と、まずは子どもたちの事業から再開。子どもたちの笑顔と笑い声に心が弾みました。

十二月には、規模を縮小した文化祭と地域清掃活動で、センター周辺と県道沿いの清掃を、また一月には、「二十歳を祝う会」と「カローリング大会」を開催。三月には、「コロナ禍の避難所設営訓練」を実施しました。参加者の皆さんからは、「楽しかった」、「有意義だった」と、久しぶりの開催にとても喜んでいただけました。

芸能文化祭

防災講座

令和五年五月には、新型コロナウイルス感染症が五類に移行されました。その他にも、地域を取り巻く環境は年々変化しています。課題も多く、それぞれに取り組みが急がれますが、その中で大切なのは「人と人とのふれあい」であると強く感じました。令和五年度は、「新しいふれあい」を目指して、地域コミュニティの拠点となり、情報発信、事業の展開など重要な役割を担いたいと考えています。

編集後記

行動制限や、感染症対策に追われ、長かった三年間がやっと終わりました。コロナ感染症も五類となりマスクは個人の責任となって人々の活動が戻ってきました。コミュニティの活動も活発になってきています。コミュニティだより九十四号をお届けします。

応神地区からは、桜のお花見会の便りが届きました。丈六地区からは、センター前の花壇の環境整備の活動報告。佐古地区からは、佐古絆文化協会の活動報告。南井上地区からは、防災についての訓練報告。内町地区からは、まちあるきと防災を組み合わせた活動報告。入田地区からは、コミセンまつりとウォーキングの活動報告。市民協働課からは、公民館とコミセンの統合の様子。渭東地区からは、活動再開の様子の報告です。

どの地区からも人と人とのふれあいという言葉が出てきます。今後とも感染予防に努めながら以前のような活動を取り戻しましょう。

各地区の活動を参考にして盛り上げていきましょう。

（大川良文　記）